

「真の愛の起源地」に関して（最終回）

韓国統一思想研究院院長 李相憲

③ 異性的愛の神聖性と醜悪性

ここで異性的愛、すなわち性行為の神聖性と醜悪性に関して調べてみることにする。被造世界は相似の法則によって創造されたために、神に似ていないものはない。それゆえ、万物を個性真理体という。一個体は、さらに小さい個体から構成されているが、その構成要素も個性真理体である。個性真理体はみな神に似ているゆえに神聖なものである。そこに汚らしいものはありえない。

個性真理体の中で最も直接的に神に似た被造物が人間である。ゆえに被造物の中で、人間が最も高貴で神聖である。したがって人体の構成部分は、いかなるものでも高貴な個

性真理体である。目も、耳も、口も、心臓も、肺も、極めて貴い個性真理体である。同様に、男女の器官（性器）も高貴な個性真理体であるのはいうまでもない。

目、心臓、肺などすべての器官が高貴な個性真理体であるということは、その器官の機能が大変重要で貴いことを意味するのである。目の機能、心臓の機能、肺の機能が万一、麻痺すれば、人間はすぐ死ぬであろう。そのように、すべての器官の機能は神の創造目的を実現させる能力であって、極めて重要で貴いものである。

同様に、男女の性的器官による性行為も極めて重要で貴い行為なのである。それは正に神が創造された行為なのである。人間が万一、性的器官を持っていないがら、性行為を

しないとすれば、神の創造の意味を實踐できない結果になる。その代わり、夫婦が愛でもって性行為をするならば、神の創造のみ旨に答える結果となり、神に喜びを返すようになる。

ところで石の中で、最も重要で貴い石は宝石である。しかし、その宝石のその重要性和貴さを継続して保存するには、宝石箱に入れるか、ピロッドに包むとかして、大切に扱わねばならない。いくら宝石であっても、汚物の中に投げ捨てれば、その瞬間に、その石は汚物だらけの醜石となるであろう。

人体の器官はみな貴重であるが、その中で、最も貴重なものが性的器官である。それは自身の次の代の生命を創造する器官であり、自己の血統を次の代に継承させる器官であるからである。その器官は神が創造した最も神聖なものの中の一つである。したがって、人体の性的器官は男女ともに常に大切に扱わねばならない。すなわち大切に保管せねばならない。そうすることによってその器官は尊重性と神聖性を維持することができるのである。

今日、地球上に生きている人間として、自分が持っている性器がそんなに貴重で神聖であると感じる人は恐らくほ

とんどいないであろう。しかしそれはむしろ当然だと見ねばならない。なぜなら大部分の人間は自分の目や心臓、肺などが必要なものと知りながらも、貴いとか神聖なものを見ていないからである。そのような観点から、性器も必要さを知るだけで、神聖なものとして見ないからといって、とがめる必要はないのである。

大部分の人間が、自分の性的器官を低俗なもの、汚らしいもの、卑しいものと見ている点に問題があるのである。すなわち、人間は性器を他の器官と同じく取り扱わないで、なぜか恥かしいもの、汚いもの、下品なもの、汚らわしいものとして差別的な取り扱いをすることが問題である。

人間が性的器官を恥部として、醜部として見なしてきたのは、この器官がかつて恥かしい行為、汚らわしい行為をするのに使用されたことを隠然と、無意識的に知っているからだと見るしかない。

それが正にサタンの誘惑に陥った人間始祖の偽りの愛による墮落行為であって、その後、今日に至るまで六〇〇〇年間、継続して秩序を破壊してきた偽りの愛、非原理的な性行為であったのである。そのようにして、重要で貴い宝石が六〇〇〇年間汚物の中に捨てられたままほこりがつ

き、ごみがつき、悪臭の出る汚らわしい石になってしまったのと同じ格好になったのである。

この事実は、メシヤとして来られた方の教えによって、初めて知られるようになったのである。すなわち神聖にして高貴な人間の器官が、サタンの偽りの愛の犠牲になって、六〇〇〇年間、醜物に転落していたのである。

今度お父様が行われた全国十二大都市の講演では、淫乱行為によってソドムとゴモラに化していく今日の現実を深く慨嘆されながら、これはみな、性的器官を本来の役割を知らずに乱用しているからであると指摘し、悔い改めなければ、実際にソドムとゴモラのように天罰を受けて滅びるのであると警告されたのである。

今、お父様のみ言によって、すべてのことが明らかにされた以上、捨てられていた宝石を再び取り出して、ごみとほこりをきれいにし、磨いて本来の宝石の姿を蘇えらせた後、宝石箱に大切に保管するように、これからはこの器官の高貴性、神聖性を大切に保存しなければならないのである。全国民がこのことを始めたとすれば、その日から我々の社会の犯罪の大部分は消え去るであろう。なぜなら、その日から性道徳、愛の秩序とともに価値観が確立されるで

あろうからである。

④ 真の愛の起源地

次に、「真の愛の起源地」の概念に関して説明することにする。今回のお父様の全国巡回講演は、「メシヤ」として、「人類の真の父母」として、初めて民族の前で（否、人類の前に）語られたみ言であるために、み言全体が、お父様が一生涯に話された内容を圧縮した珠玉のような重要なものであるのはもちろんであるが、その中で特に強く、「驚くな」と注意をうながしながら言われた言葉が、「真の愛の起源地とは正に性器である」ということであった。

なぜ「驚くな」と言いながら、注意をうながされたのであるか。そこには表現し難いほどの凄まじい切なさが含まれていることを知らなければならぬ。この事実を次の寓話で説明してみよう。

昔、一人の貴族がいたが、千万金を与えても買えない宝石を保管していた。ところがある日、泥棒が入ってその宝石を盗んで行った。彼は方々をくまなく捜したが、捜すべがなかった。何年もかけて捜してもすべて無駄であった。そうこうして歳月が流れる間に、彼は宝石捜しを断念した。

たからである。

しかし師は、貴族に向かって断固たる語調で「疑うな！私はお前の師ではないか！持っていてよく磨いてみなさい。必ずその本然の姿が現われるであろう」と怒鳴るように命じた。ようやく貴族は、師の断固たる勢いに押されて、その石ころを持って従者とともに帰った。

そして貴族がその石からほこりとごみを拭い取ってみれば、はたしてそれは失った宝石に違いなかった。貴族は師を疑ったことを悔いながら、宝石を捜してくれたことを真心から感謝するのであった。師も喜んだ。

以上は、お父様が「真の愛の起源地」が世間の人たちが最も卑しんでいる部分（性器）にあると発表される時、聴衆の心理に現われる反応をあらかじめ知り、切ない心情を感じながらも、六〇〇〇年間、サタンに踏みこじられた宝石を捜してやるように、この上ない愛の心をもって「驚くな！」と注意を捉がされたように感じられたので、その感じを寓話的に表現してみたのである。

とにかく今、我々は、この教えを通じて我々の性的器官が決して卑しいものではなくて、むしろ貴く神聖なものであることを確実に悟ったのである。またそれは、もっぱら

ところが、数年後、その貴族を幼い時から教えた師が現われて、その宝石を私が捜してやるから私について来いというのであった。彼は従者数名をつれて師の後を追った。師は、偶然の機会にその泥棒がだれであるか、また宝石はどこにあるか知っていた。泥棒はその宝石がどれだけ貴いかを知らず、石ころ扱いをしてむやみに使った後、ごみ箱に捨てたのである。師がその貴族と一緒に訪ねた時、その泥棒はどこかに行っておらず、ごみ箱だけがあった。その時、見物人が集っていた。しばらくして師はごみ箱からその宝石を捜し出した。その宝石は長い間、悪用され乱用されて、ほこりとごみと汚物が厚く付いており、無用の石ころのように見えた。それを取って、これがあなたが捜した宝石であると言った。

しかし、貴族はそれを宝石として信じるはずがなかった。彼は僕や見物人たちと一緒に嘲笑し、疑い、ついには悪口まで言いながら、「これが真の宝石であればあなたが持つて行きなさい！」と言って師に投げつけた。この時、師は表現し難い切なさを感じた。師は無情さと孤独感、屈辱感、悔蔑感を感じた。「最大の福を与えようと努力しているのに、かえって疑い、蔑みまでするとは」と、悔しさを感じ

夫婦の間の愛のためにのみ備えられていることを知るようになった。この教えに従ってこれからは、いっそう大切に保管するように努力しなければならないのである。

それではこれから「真の愛の起源地」が「性器」であるということに対して、その意味をもう少し深く考えてみることにする。性器が愛の起源地であるということは、性的な愛が万物の愛までも含めたすべての愛の根源であるという意味に理解されやすい。しかし「真の愛の起源地」という表現にはただし書きが付いている。すなわち「人間において」というただし書きである。

したがってただ人間世界においてのみ、真の愛の起源地が性器だということである。しかし、これは男女の異性的愛がその他のすべての人間の愛の起源地になるということでは決してない。これはただ人間生活において、すべての形態の愛が例外なく、「性的特性」に関係があることを意味するだけである。

人間世界にはいろいろな種類の愛がある。家庭には、父母の愛、夫婦の愛、子女の愛があり、社会生活、団体生活、国民生活では、隣りへの愛（隣人愛）、上官に対する愛、部下に対する愛、国民の国家に対する愛（愛国心）、民族

において、父母が息子に対して愛を施す時、父の愛と母の愛はその性格において決して同じではない。父の愛は厳しく、おまかまで雅量があり、母の愛は柔らかく、繊細で、多情である。父は男性で母は女性であるから、このような相異が生ずるのである。

また愛国心の場合を例として挙げてみる。例えば李舜臣將軍の愛国心には、父母（特に母）に対する孝行心と王様に忠誠を尽す心とともに含まれており、柳寛順の愛国心には、父に対する孝行心のような心理と、国家を夫のように見なした烈女としての心理がともに含まれていると見られるのである。このような相異も、李舜臣將軍は男性であり柳寛順は女性であるからである。

これは一宗教において教祖に対する信徒たちの愛の場合も同じである。例えば仏教の場合、男性の信徒は仏様に対して、師や母に対する感情をより多くもって愛するが、女性の信徒は仏様に対して、夫や父に対する感情をより多くもって愛するのである。男性である仏様に対して、信徒の愛に男女の二つの愛があるからである。

このように見るとき、人間社会のすべての愛は男性の愛とか女性の愛であるため、その愛の性格も、それにしたがっ

愛があり、そのほかに人類愛、神に対する愛、自然万物に対する愛（自然愛護）等がある。

この中で、夫婦の愛だけが異性的愛であって、そのほかの愛は男女の異性的愛とは何の関係もない。それではなぜ、すべての愛の起源地が「性器」だといって、あたかもすべての愛が異性的愛と関係があるように表現したのであるか。

人間において「真の愛の起源地が性器である」と言ったのは、すべての愛が異性的愛ということでは決してない。性器には男性性器と女性性器があるが、ここで「真の愛の起源地は性器」というのは、男子の真の愛は男性器に関連があり、女子の真の愛は女性器に関連があることを意味するのである。

「真の愛の起源地」をこのように理解すれば、すべての類型の愛が、夫婦の愛以外は異性的愛でないにもかかわらず、「性的特性」に関係していることを知るようになる。すなわちいかなる形態の愛であっても、愛は必ず男性的特徴を帯びた愛か、女性的特徴を帯びた愛になるのである。なぜなら愛する主体が、男でなければ女であるからである。

ここで実例を挙げてみることにする。家庭の父母の愛に

て男性的か女性的か、どちらか一つになるのである。このようにして、人間のすべての愛（真の愛）が性を通じて現われるという事実を知ることになる。これで「（人間の）真の愛の起源地が性器である」という命題の真の意味が明らかにされたと思う。

⑤ 異性的愛と心と体の統一

最後に、異性的愛と心と体の統一の關係に関して述べることにする。なぜなら人間において、陽性（男）と陰性（女）の關係が先か、心と体の關係が先かという問題が提起されるからである。

お父様の教えによれば、すべての統一の出発は心と体の統一である。南北統一の達成も、世界統一の達成も、その出発は心と体の統一にある。その次が男と女の統一、すなわち夫婦の統一である。その時、心と体はいかに統一されるのであろうか。

主体である心（性相）と対象である体（形状）が創造目的を中心として相対的關係をなせば、これが神の性相と形状の相対關係に似るために、神がそこに運行すると同時に、神の愛が縦的に連結されるようになって、その愛によって

心と体が統一されるようになるのである。

そうすれば人間は、神において心と体が愛を中心として統一されているその姿に似るようになる（「真の愛と統一の世界」の「本郷へ行く道は宗教を通じて」の項目）。このように心と体が一つに統一された後、次の段階として男と女（夫婦）の統一が成されなければならない。

統一にこのような順序があるのは、原相において、神の一次的な属性が性相と形状であり、二次的な属性が陽性と陰性であるからである。すなわち、陽性と陰性は性相と形状の属性であるからである。

それゆえ、創造された人間においても、心と体の統一（人格の完成）が先に要求され、その次に陽性と陰性（男と女の統一（結合）が成されるようになっていく。三大祝福において、第一祝福が個性完成（個人の人格完成）に関する祝福であり、第二祝福が家庭完成（夫婦の結合）に関する祝福であるのはそのためである。

⑥ 性的性格の愛と、心と体の統一

既に述べたように、人間の性相（心）と形状（体）が相対的關係を結ぶ時、神の愛がそこに連結されるようになり、

③ 神において、性相と形状が一次的属性であり、陽性と陰性は二次的属性である。

④ したがって、人間において心と体の統一が第一に要求され、その次に男と女、すなわち夫婦の統一が要求される。

⑤ 人間において、心と体が統一する時に形成される新しい愛の力は、男性または女性の性格を帯びて現われる。したがって人間世界の真の愛は、異性間の愛を含めて性的性格を帯びるようになる。それゆえ、「真の愛の起源地は性器である」という命題が可能である。

⑥ 神の真の愛は自身を完全投入して、限らない温情を施して、相手を喜ばせることによって相手と一つになろうとする情的な心の力である。

⑦ 今日まで解決されえなかつたすべての難問題は、このような神の真の愛によって根本的に完全に解決される。

⑧ いろいろな現実問題がまだ解決されなかつたのは、神を除外して解決しようとした人間の傲慢性のためであり、サタンの偽りの愛のためであった。

⑨ 神の真の愛を地上に広げるために来られた方が、再臨のメシヤであり、人類の真の父母である。〈完〉

心と体が神の愛を中心として授受作用をして、統一されるようになる。のみならず、その授受作用によって、新生体として新しい愛の力が形成されるようになり、その力によって他人との授受作用がまたなされるようになる。ところでこの時、新生体として形成される愛は漠然たる情的な力ではなく、性的特性を帯びた情的な力なのである。すなわち、男子の心と体が統一される時に形成される情的な愛の力（新生体）は、男性の特性を帯びた愛の力になり、女子の心と体が統一される時の新生体である愛の力は女性の特性を帯びた愛の力になる。

結論

以上、説明した内容を簡単に要約して整理すれば次のような要点になる。

- ① 真の愛、原理的愛の究極的な起源は神である。
- ② 被造世界において、人間世界だけでなく万物世界にまで、原理的愛が作用している。

光言社のほん

21世紀の希望と

統一運動

大学教授がみた世界救世への道

統一運動に真の希望を見いだした大学教授らが、ほとぼしる情熱をもって自身の歩みを語り、文鮮明師との出会いを語り、統一運動の現状と未来を語った証言集。世界的に広がる救世運動の実像に迫ります。

B6判 168頁 定価720円(〒210円)



福田信之編

最寄りの書店でもご注文できます 発送センター ☎ 03-384-4225 FAX03-384-4374
光言社 〒150 東京都宇田川町 37-18 ☎ 03-467-3105 代